安全・安心の追求

設備の安全対策や作業者の安全確保を徹底し、安全・安心を最優先した事業活動を行います

関連するSDGs

お客さまや地域の皆さまの安全を確保するため、感電事故の発生防止対策に取り組んでいます。

■電力設備への接触防止対策

▶鉄塔への昇塔防止や発電所・変電所への侵入防止
　昇塔防止装置や外柵、注意喚起標識を設置

▶クレーン車等の重機や釣竿などの送電線への接触防止
　河川横断部などに注意喚起標識を設置

昇塔防止装置

注意喚起標識

■電力設備工事における安全対策

▶道路周辺での工事
　落下物による公衆災害等を防止するネットを設置

▶電線工事
　作業者の接触による感電等の注意喚起・防止のためのシート等を取付

落下防止ネット

■ご家庭での電気の安全な使い方の注意喚起

▶電気のお役立ち情報をご紹介する「電気知っ得本」やホームページでお知らせ

〔電気知っ得本〕

「電気知っ得本」は▲こちら

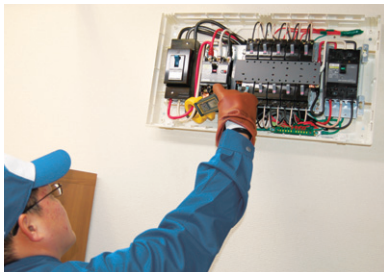
ホームページは▲こちら

■ご家庭の電気設備の安全調査

当社が委託する九州電気保安協会及び各県の電気工事業工業組合の調査員が、お客さま宅を訪問し、電気設備の安全調査を行っています（4年に1回）。

安全調査では、漏電調査や分電盤のネジの緩みの点検のほか、感震ブレーカー※による電気火災対策をお知らせするなど、電気を安心してご使用いただけるよう努めています。

※地震を感知すると自動的に電気を止めるブレーカー


分電盤の点検

調査を装ってお客さま宅を訪問し調査料をだまし取るなど、**「ニセ調査員」による詐欺**が発生しています。
当社が委託する安全調査では料金を請求することはありません。
少しでも不審に感じられたときは、身分証明書の提示を求めるとともに、お近くの九州電力までご連絡ください。

この他にどのような取組みを行っているの？　詳しくはウラ面へ

九電グループ一丸となって安全の取組みを推進しています。

「経営の基盤である安全」に関わる取組みを一丸となって推進するため、2017年4月に、社長を委員長とする「全社安全推進委員会」を設置し、同年12月、「九電グループが目指す安全とその基本方針」を示した「九電グループ安全行動憲章」などを制定しました。

これらの内容を協力会社も含めて共有し、永続的な理解・浸透に努めていきます。そして、「安全を最優先する風土・文化」を組織のDNAとして刻み込み、世代を越えてつなぎ続けていくことができる九電グループを目指します。

「九電グループ安全行動憲章」と、「九電グループの安全の誓い」、「一人ひとりの安全行動3か条」

九電グループ

〔九電グループ安全行動憲章〕

九電グループは、事業に関わるすべての人たちの安全を守り、その先にある安心と信頼につなげることを目指します。

このため、労働安全、設備保安の観点から、経営の基盤である安全を最優先する企業活動に向け、次の5つの行動を徹底します。

1 安全の創造と進化　2 声の反映と情報発信　3 風通しの良い環境づくり
4 自己研鑽　5 DNAの伝承

職　場

〔九電グループの安全の誓い〕

「いってきます」、「おかえりなさい」、そんな言葉を交わせる安心した毎日を守り続けます。
そのために、一人ひとりの強い決意とゆるぎないチームワークで、常に安全について考え行動します。

個　人

〔一人ひとりの安全行動３か条〕

1「学び、守る」安全行動の本質を学び、確実に守ります
2「気づく」地域や仲間の声を聴き、議論し、新たな危険に気づきます
3「進化」気づきを安全行動に進化させます

安全行動憲章等の理解・浸透に向けた取組み

安全行動憲章の制定は、九電グループの安全文化醸成に向けた取組みの新たなスタートであり、社員はもちろん、協力会社を含めた理解・浸透に努めています。

その一環として、経営トップ層と現場社員が安全・安心についてディスカッションする「安全懇談会」を実施しています。

また、2018年7月には、グループ会社の（株）九電工の研修施設「九電工アカデミー」において、九電グループ「安全ワークショップ」を開催し、安全教育施設「安全伝承館」の見学や、危険に対する感受性を向上させる「危険体感研修」等を行いました。

実際に起こり得る危険を体感する「危険体感研修」

九電グループのワークショップで培った経験を、自社の安全活動に活かしていきます。

九州林産㈱では、「緑豊かな環境づくり」という理念のもと、緑化工事や九州電力の社有林の管理などを行っています。特に、安全の取組みには力を入れており、全事業所での経営層による安全パトロールなどを行っています。また、「九電グループ安全行動憲章」の理解・浸透にも、会社を挙げて取り組んでいます。

私自身も、九電グループの安全ワークショップに参加し、「九電グループ安全行動憲章」の策定に直接携わりました。その中で、九州電力やグループ会社の方々と意見を交わしながら安全に対する思いを以前にも増して強くもつことができました。この経験を活かし、今まで以上に安全活動を推進していきます。

九州林産株式会社
総務部 総務グループ長 木道（きどう） 浩隆（ひろたか）